【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成26年2月13日(2014.2.13)

【公開番号】特開2011-128511(P2011-128511A)
【公開日】平成23年6月30日(2011.6.30)
【年通号数】公開・登録公報2011-026
【出願番号】特願2009-289039(P2009-289039)
【国際特許分類】
Ｇ１０Ｂ　3/12　(2006.01)
Ｇ１０Ｈ　1/34　(2006.01)
Ｇ１０Ｇ　1/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ１０Ｂ　3/12　Ａ
Ｇ１０Ｈ　1/34
Ｇ１０Ｇ　1/02

【手続補正書】
【提出日】平成25年12月18日(2013.12.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４８】
また、この鍵盤楽器では、第１、第２の各基板２２、２８のうち、黒鍵用の第２基板２８に各鍵７の上限位置を規制する上限ストッパ部３２を設けているので、これによっても鍵盤シャーシ６の構造を簡素化することができ、鍵盤シャーシ６を成形するための成形用の金型の製作が容易にでき、金型費用を更に安くすることができるので、より一層、楽器全体の低価格化を図ることができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４９】
すなわち、鍵盤シャーシ６に鍵７の上限位置を規制する上限ストッパ部３２を設けるためには、従来では、鍵７の鍵フック部３３が上下方向に移動可能な開口部を鍵盤シャーシ６に設けなければ、鍵７の鍵フック部３３を上限ストッパ部３２に下側から当接させることができない。このため、鍵盤シャーシ６を成形するための成形用の金型の構造が複雑になるほか、金型による樹脂成形時における樹脂の流れが悪くなり、金型による成形サイクルの回数が少なく、不良品の発生率が高くなる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５８】
次に、白鍵用の第１基板２２を鍵盤シャーシ６に取り付ける場合について説明する。
この場合には、第１基板２２を鍵盤シャーシ６の下側から第１基板取付部３５の一対の

立上り部３５ａ、３５ｂ間に挿入すると共に、第１基板２２の複数のガイド突起部２３を連結部３５ｃに設けられた複数のスリット孔３７にそれぞれ挿入させて、図１１に示すように、複数のガイド突起部２３間に位置する第１基板２２の上部を、複数のスリット孔３７間に位置する連結部３５ｃの下面に当接させる。